

令和8年度 社会福祉学部 一般選抜 前期日程

1

【出題意図】

高等学校で習得した基礎学力, 文章理解力, 語彙力, 設問の趣旨にそって表現する能力を問う。

【解答】

問 1

(ア) 勤務 (イ) 圧迫 (ウ) 補助 (エ) 負担 (オ) 薄

問 2

A : 3 (年) B : 1 (歳)

問 3

育休をとっても雇用と給料が保障されるメリットが労働者にあれば, 採用や従業員定着というメリットが企業にもある。あるいは, 給料を少し低めに設定しても優秀な労働者を集められるというメリットが企業にもあるため(, 育休を自発的に整備すると考えている)。(101 字 or 119 字)
(採点基準)

- ・労働者にとって育休が魅力的であること(雇用と給料の保障)が言及されている。
- ・企業にとって採用や従業員定着, 優秀な労働者を集められるというメリットが説明されている。
- ・文章が完結しており, 文字数制限が守られている。
- ・文章構成が適切であり, 誤字・脱字がない。

問 4

解答例: 労働者の育休取得意向についての情報が労働者と企業の間で非対称であるなか, 企業がコストを見積もるため世の中の平均的な育休取得意向から計算して決めた給与額は, 育休取得予定の労働者には魅力的に見える一方で, 予定のない労働者には低く見えるため, 育休取得予定者のみが企業に残り企業が支払うコストが大きくなるのに伴い, 他社との競争において不利になるから。(171 字)

(採点基準)

- ・情報の非対称性について簡潔に触れられている。
- ・世の中の平均的な育休取得意向から計算して決められた給与額は, 育休取得予定の労働者には魅力的に見える一方で, 予定のない労働者には低く見えることについて説明されている。
- ・育休取得予定者のみが企業に残ると, 企業が支払うコストが大きくなるのに伴い, 他社との競争において不利になることについて説明されている。
- ・文章が完結しており, 文字数制限が守られている。
- ・文章構成が適切であり, 誤字・脱字がない。

2

【出題意図】

高等学校で習得した基礎学力，文章理解，設問の趣旨にそって表現する能力を問う。

【解答】

問 1

(ア) ソンゲン (イ) ショウチョウ (ウ) トクモク (エ) ヨウダイ (オ) コウヨウ

問 2

かけがえのない

(参考)

かけがえのない：他に代わりとなるものがないほど大切

とりとめのない：話や文章などのまとまりがなく，要点や目的が定まらない状態

やりきれない：気持のおさまりがつかない。辛抱しきれない。かなわない

かぞえきれない：数が非常に多くて，個々に数えることができないほどである状態

問 3

人生の質

問 4 (解答例)

人間は希望があるからこそ生きられ，患者にとってはドラマが生きる希望であった。しかし，ドラマが終わる時期を聞かされてしまった患者にとっては，生きる希望を奪うような声になったから。(88 字)

(採点基準)

- ・ドラマが患者の希望（または，生きがい）になっていたことが示されている
- ・「無神経な声」がネガティブな意味で捉えられており，ドラマが終わる時期を伝えられてしまった患者にとっては，希望（または，生きがい）を奪うほどのできごとであったことが示されている
- ・文章が完結しており，字数が守られている。
- ・誤字脱字がない。

問 5

自分で感じ取り，自分で選び取る（15 字）

【出題意図】

基礎的な英語力を前提として，受験者が，(i) 与えられた時間内に一定分量の英文を正確に読むことができる「英語読解力」，(ii) 読解した内容について，適切かつ簡潔な表現で説明を与えられる「日本語表現力」，および (iii) 平易な語彙と文法を用いた「英語表現力」を備えているかを問う。

これらの力は，本学入学後に，専門とする学問領域に対する理解を深め，自らの研究や実践の成果を積極的に発信する上で求められるばかりでなく，多様な文化的背景を持つ人びとと英語を共通言語としてコミュニケーションを図り，さらには，そういった人びとと将来にわたって協働していく技術や態度を身につける上で，必要不可欠な英語（言語）運用力の構成要素であると考ええる。

【解答(例)】

問 1	find themselves struggling to deal with
問 2	for
問 3	so
問 4	surviving relatives
問 5	（個人の信念・信仰や地域の文化に深く根付いている）葬儀の風習
問 6	Facing
問 7	誰もが不要な心配をせず人生の最後と向き合うことができる枠組みを作る必要がある。
問 8	2

【出題意図】

- ・ 数理技能の力量を、資料解釈の割合計算問題から測る。
- ・ 本学作成要領にある過去問として解く際に学びとなることを求められていることから、出題資料により高齢者世帯数および単独世帯数の将来的推移の理解を深める。

【解答】

問1 解答 2020年 35.2%
2050年 45.1%

$$\begin{aligned}\text{計算式 2020年 } & (7378 \div 20973) \times 100 = 35.17 \\ \text{2050年 } & (10839 \div 24041) \times 100 = 45.08\end{aligned}$$

- ・ 計算式が正しく、解答が間違いの場合は部分点を与える。
- ・ 計算式は、 $\times 100$ がなくても正しく百分率に変換していたら正答とする。

問2 解答 「世帯主 65 歳以上の世帯総数」 -2.8%
「世帯主 65 歳以上の単独世帯数」 28.8%

$$\begin{aligned}\text{計算式 「世帯主 65 歳以上の世帯総数」 } & (210 - 216) \div 216 \times 100 = -2.78 \\ & \text{または } [(210 \div 216) - 1] \times 100 = -2.77 \\ \text{「世帯主 65 歳以上の単独世帯数」 } & (85 - 66) \div 66 \times 100 = 28.79 \\ & \text{または } [(85 \div 66) - 1] \times 100 = 28.78\end{aligned}$$

- ・ 計算式が正しく、解答が間違いの場合は部分点を与える。
- ・ 計算式は、 $\times 100$ がなくても正しく百分率に変換していたら正答とする。

問3 解答 2

問4 (1) 解答 1

(2) 解答例 分母となる「世帯主 65 歳以上の世帯総数」の減少に比べて、分子の「世帯主 65 歳以上の単独世帯数」の減少が小さいために、単独世帯の割合は増加することになる。(74 字)

- ・ 世帯数の「数量」と「比率」の意味の違いを理解した回答である。
- ・ 分母に対して分子の減少数が小さいといった分母と分子が不特定の回答は部分点を与える。
- ・ 人口減少に転じる理由を述べている場合は誤り
- ・ 解答のみが正しい場合は部分点を与える。